



よこお たかふみ  
**横尾 貴文**

前例にとらわれない発想がDX推進・ゼロカーボン実現には必要

## 実現に向けた市の方針は

**答弁** 推進計画・ロードマップを策定し取り組む

動画で一般質問をご覧ください

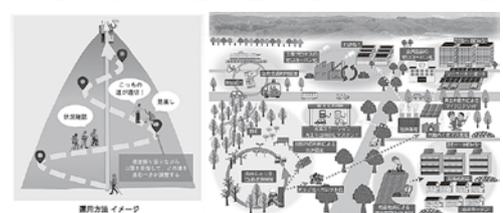


**問** DX推進にはサービスを短いスパンで見直し使い勝手を向上させていく「アジャイル思考」や利用者の視点からサービス全体を設計する「サービスデザイン」といった考え方が重要だが、DX推進基本方針を踏まえた今後の取り組みは。

**答** 基本方針を踏まえ、現在DX推進計画の策定をしている他、業務の課題分析、迅速化、正確性や利便性の向上を図るBPR（ビジネス・プロセス・リエンジニアリング）や、全職員にDX推進に関する研修を行い、今後も継続する。推進計画では「アジャイル思考」「サービスデザイン」の考え方を取り入れ、計画の運用方法としている。

**問** 地球温暖化対策として温室効果ガス排出実質ゼロを掲げた2050年、46%削減が目標の2030年に向けたゼロカーボンへの市の取り組みは。

**答** 日高市カーボンニュートラルに向けたロードマップを策定し、省エネ化の推進、再生可能エネルギーの利用・促進、森林の整備・保全・活用の3つの柱で更なる地球温暖化対策に取り組む。



DX推進計画の運用イメージ(左) ゼロカーボンの将来ビジョン(右)  
出典 日高市DX推進計画(左) 日高市カーボンニュートラルに向けたロードマップ(右)



かとう しょうご  
**加藤 将伍**

地域ぐるみの鳥獣被害対策を、市全体で取り組んでいくために

## 市民・農業者の協力体制強化の方策は

**答弁** アライグマ捕獲従事者養成研修会を市で実施する

動画で一般質問をご覧ください



**問** 物価高騰に伴い、活動経費が膨らむ日高猟友会への業務委託とサポート体制の状況は。

**答** 昨年度から10万円増、令和6年度の予算は、50万円を計上予定。人力の伴う、狩猟者の負担の大きい捕獲後の有害鳥獣の処理については、狩猟者の負担を軽減できる対策を検討する。

**問** 畑を荒らす特定外来生物（アライグマ）の捕獲について、本来、わな猟免許が必要であるが、県実施の研修会に参加し、従事者登録をすれば、どなたでも捕獲が可能となる。地元市民・農業者の捕獲従事者拡大を図るため、現在、川越が最寄りとなる本研修会を日高市で実施する考えは。

**答** 令和5年度、すでに247頭のアライグマを捕獲しており、捕獲したアライグマを市役所まで搬送した場合、捕獲従事者へ報償金を交付している。捕獲数は増加傾向にあり、鳥獣被害対策には市民の協力が不可欠と考える。そこで、捕獲従事者を増やし、捕獲機会を増やすためにも、捕獲従事者研修会を日高市で実施することを予定している。

**問** 研修会の日高市開催に向け、市民の自衛の意識醸成と協力体制を高めるための方策は。

**答** アライグマの捕獲従事者制度や報償金のしくみを広報ひだかや市ホームページから広く周知し、防除意識の醸成を図りたいと考える。